

関西大学通信

THE KANSAI UNIVERSITY NEWS

【特別号】

The Vision Book of Kansai University

KU Vision 2008-2017

～学校法人関西大学の長期ビジョン(将来像)～



千里山キャンパス正門付近の時計塔

平成20年(2008年)9月10日

関西大学広報委員会 発行

大阪府吹田市山手町3-3-35

TEL. 06-6368-1121(代表)

<http://www.kansai-u.ac.jp/>

目次 [CONTENTS]

I 長期ビジョン策定にあたって	1	II 学校法人関西大学の 長期ビジョン(将来像)について	4	III 新たな時代を切り拓く	8
建学の精神に立ち返る	1	躍動的な「知の循環」システムの構築	5	[概略および付表]	10
教学の理念・目標の再確認	1	「考動力」あふれる人材の育成拠点	6	●長期ビジョンについて【概略版】	11
経営理念を踏まえて	2	教育を支える「鍛えられた研究力」	6	●長期ビジョン策定の考え方について	12
これからの10年間で展望して	2	ソーシャル・ネットワークの拡充 ～一人ひとりとのつながりを大切に～	7	●長期ビジョンと現行の 戦略策定構造との関係の整理	13
長期ビジョンの意味するもの	3	ゴーイング・コンサーンとしての学園 ～足元を見つめ、未来を見据え 発展する学園体制の構築～	7		

学校法人関西大学の長期ビジョン(将来像)について

このたび、「KU Vision 2008-2017」と題する、学校法人関西大学の長期ビジョン(将来像)を策定いたしました。

現代のような変化の激しい不透明な時代に、学園の関係者が一丸となって将来へ立ち向かい、理念を具現化していくためには、長期的な視点で目標を立てたうえで、改革を推進していく必要があります。

第18回基本構想推進会議(平成18年11月18日開催)において「法人と教学が一体となって学園全体の将来像を考える必要がある」との発議がなされ、同会議および関西大学戦略会議において協議した結果、30～40代の教職員を中心に、学園の将来像について検討することを目的とした長期ビジョン検討委員会が発足しました。

平成19年4月から活動が開始され、計14回の全体会および複数回の分科会を経て、同年12月に答申(最終報告書)が提出されました。

この答申の内容をもとに長期ビジョン素案を作成し、学生、教職員、教育後援会、校友会等の関係者に対し、意見募集を実施しました。その結果、144人の方々から、延べ200件の貴重なご意見をお寄せいただきました。この場をお借りして、あらためてお礼申し上げます。

いただいたご意見を踏まえ、素案を修正し原案として第36回関西大学戦略会議(平成20年7月16日開催)を経て平成20年度第6回理事会(同年7月24日開催)に提出いたしました。その結果、学園の長期ビジョンが決定いたしました。

ここに、その内容を発表いたします。

なお、今後は、この長期ビジョンに基づき、目標を達成するための具体的な行動計画の策定に向けて検討していきます。

以上

平成20(2008)年7月24日

学校法人関西大学 第15期理事会

理事長 森本 靖一郎

I 長期ビジョン策定にあたって

建学の精神に立ち返る

Back to the Founding Spirit of the University

関西大学の前身は、わが国が法治国家としての体制を整えつつあった明治19(1886)年に、関西最初の法律学校として大阪・西区京町堀に誕生した関西法律学校です。

当時は、自由民権運動の高まりとともに、近代国家への発展をめざすため様々な法整備が進められ、法律に関する国民大衆への啓蒙、教育の必要性が高まっている時代でありました。そこで、自由民権運動の活動家吉田一士が、司法省顧問ボアソナード博士に教えを受けた井上操ら大阪在勤の若き司法官に教育機関創設を働きかけ、大阪控訴院長児島惟謙の指導と協力のもと、「近代国家の構成員として必要な法知識の涵養と普及」を設立目的とした、関西法律学校を創立したのです。

市民の法知識の涵養をめざす草創期の教育は、後年になって「正義を権力より護れ」という理念のもとに展開されるようになりました。これが関西大学の**建学の精神**であり、以来本学は一貫して社会・市民の啓蒙と教育に取り組んできました。



関西大学創立者の像

教学の理念・目標の再確認

Reaffirmation of the Philosophy of Education and Research

大正11(1922)年に大学令による大学(旧制)へ昇格した本学は、大学の教育研究の指導理念として、「学の実化(じつげ)」なるスローガンをうち立てました。その理念は「**学理と実際との調和**」「**国際的精神の涵養**」「**外国語学習の必要**」「**体育の奨励**」から成り立ち、その後、本学の**学是**として定着しています。また、この学是を具体的に展開するため、いくたびかの変遷を経て、様々な教育目標が掲げられてきました。とくに、この20年は、①「**開かれた大学**」構想の具体化、②**国際化の促進**、③**情報化社会への対応**を柱とする3つの教学の基本戦略を踏襲しながら、グローバ

ル化する社会、情報化社会に対応できる有為な人材の育成に努めてきました。

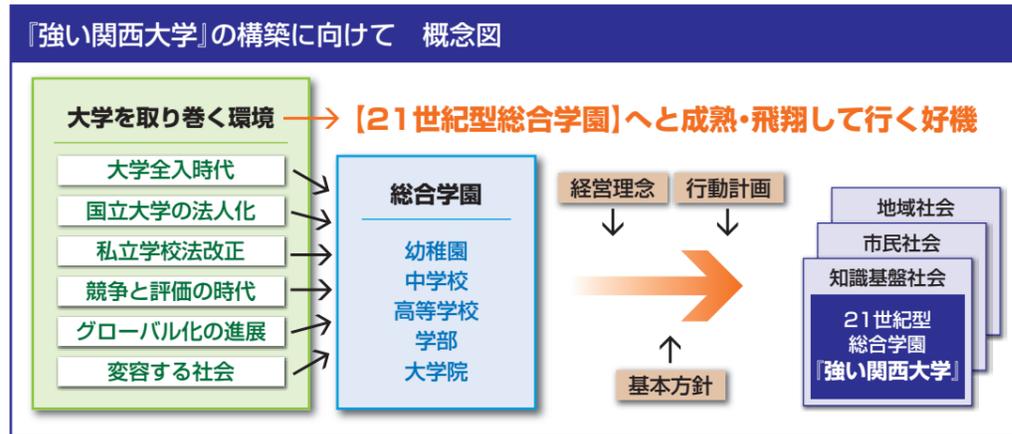
しかしながら、少子化による大学全入時代の幕開け、国公立大学の独立行政法人化や大学設置の規制緩和による競争の激化、第三者評価や競争的資金制度の導入など、私立大学を取り巻く環境は厳しさを増しています。各大学は、このような状況に対応するため、経営戦略を明確化し、教育・研究改革を推進し、個性が輝く大学へと自己革新する必要に迫られています。

経営理念を踏まえて

Based on the Management Principles

そこで、平成17(2005)年には、「強い関西大学」の構築に向けて、「教育」「研究」「社会貢献」という大学の3つの使命に基づき、『知』の世紀をリードし、新しい『公共』を創造する **力漲る21世紀型総合学園**となることを掲げた経営理念ならびに基本方針を策定しました。そしてその

理念の実現に向け日々活動しております。「関西大学から世界へ」を合言葉に、グローバルに活躍できる地球市民の育成に努め、現在では、10学部・1機構、11研究科、2併設高校、1併設中学校および幼稚園を擁する総合学園へと発展しています。



これからの10年間を展望して

Prospects for the Next 10 years

21世紀は、知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、いわゆる「知識基盤社会」の時代であるといわれています。

同時に、今後は、これまで以上に変化の激しい時代が到来することが予想されます。中央教育審議会の答申「教育振興基本計画について」〔平成20(2008)年4月18日〕によれば、これからの10年間においては、少子化の進行により人口が減少し、若年者の割合が低下する一方で、人口の4人に1人が65歳以上という超高齢社会に突入するといわれています。また、グローバル化が一層進むとともに、中国などの諸外国が経済発展を遂げ、国際競争がますます

激化することが予測されています。さらに、地球温暖化などの環境問題の深刻化、価値観の多様化、高度情報化・ネットワーク化の進展など、国内だけでなく地球規模での様々な環境変化が起こっていくでしょう。

このような変化の激しい不透明な時代に、学園の関係者が一丸となって将来へ立ち向かい、理念を具現化していくためには、長期的な視点を持って目標を立てたうえで、改革を行っていくことが必要であると考えました。

そこでこのたび、学園の10年後のあるべき姿＝将来像を展望し、どのような目標を持ち、それに向かってどのように進むべきかについて検討し、長期ビジョンを策定することといたしました。

長期ビジョンの意味するもの

What Our Vision means

今般策定した長期ビジョンは、国際ビジネス都市・大阪を代表する私立大学として、本学の120年を超える歴史的経緯を十分踏まえつつ、これからの約10年間を展望し、学園全体の進むべき方向と意思決定や行動の指針を示すものです。「ビジョン」の位置づけについては、次のように定義いたしました。

第一に、ビジョンは、こうなりたいという目標を描いた将来のあるべき姿＝将来像を示すものです。

ビジョンの上位概念にはミッション(使命、理念)と呼ばれるものがあり、これは、その組織体の存在意義(何のために存在するのか)を表したものです。私立学校でいえば、建学の精神や教学理念、経営理念に該当するものです。ビジョンは、このミッションを踏まえ、それを実現するために設定された目標であり、ミッション遂行のうえで、構成員が判断に迷ったときに進むべき方向性をわかりやすく示す、北極星のようなものであります。

第二に、ビジョンは個々の事業がどうあるべきかを描く「戦略」や、さらに詳細な設計図である「計画」よりも上部に位置づけられ、それらを策定する際の方向性を示唆するべきものであります。

第三に、ビジョンは、中長期的な視点を持つ、将来のある時点における到達目標であり、法人・大学執行部体制が変わっても引き継がれるべきものであります。

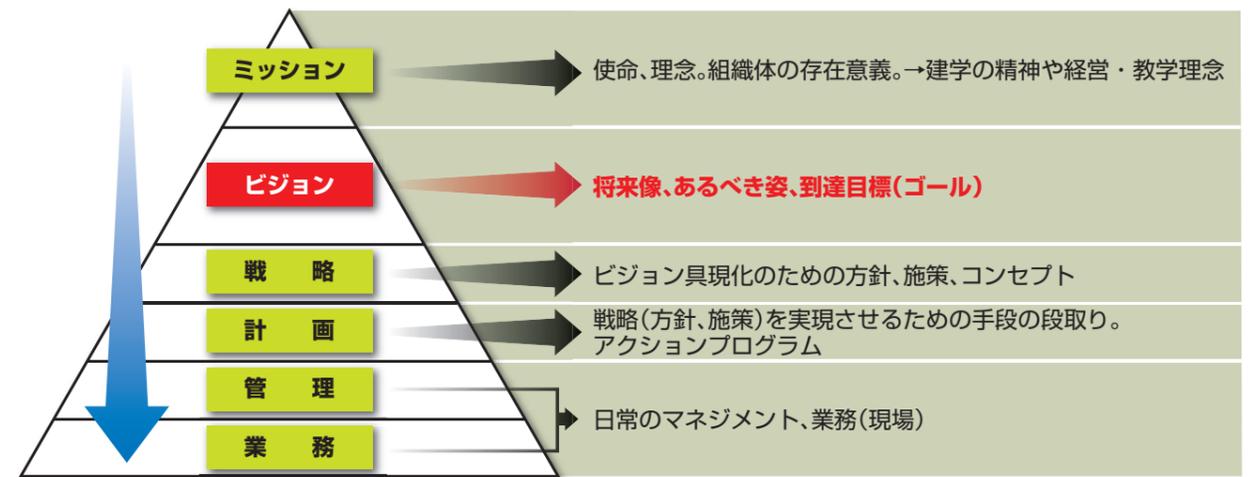
これらを図示したものが、下の「ビジョンの位置づけを表す図」です。

長期ビジョンを策定するにあたっては、まず、平成19(2007)年4月に「長期ビジョン検討委員会」を発足させ、14回の全体会および複数回の分科会等を通じて活発な議論を行いました。その結果、同年12月に、長期ビジョン検討委員会から答申「関西大学の長期ビジョン(将来像)－KU Vision 2008-2017」が提出されました。

この答申の内容を十分に尊重し、「長期ビジョン【素案】」を策定いたしました。そして、平成20(2008)年4月に学生、教職員をはじめとする学内外の関係者を対象に、素案に対する意見募集を実施いたしました。その結果、多くの貴重なご意見をお寄せいただきました。

いただいたご意見を踏まえ、さらなる検討を重ねた結果、「KU Vision 2008-2017～学校法人関西大学の長期ビジョン(将来像)～」が完成いたしました。その内容について、次章で説明いたします。

【ビジョンの位置づけを表す図】



II 学校法人関西大学の長期ビジョン(将来像)について

KU Vision 2008-2017

社会を見つめ、変化に挑む。「考動」する関大人が世界を拓く。

- 躍動的な「知の循環」システムの構築
- 「考動力」あふれる人材の育成拠点
- 教育を支える「鍛えられた研究力」
- ソーシャル・ネットワークの拡充
～一人ひとりとのつながりを大切に～
- ゴーイング・コンサーンとしての学園
～足元を見つめ、未来を見据え発展する学園体制の構築～

めざすべき方向性として「社会を見つめ、変化に挑む。『考動』する関大人が世界を拓く。」を最上段に掲げ、それを支える5つの柱として、**ビジョン5項目**を設定しました。

基本としてめざすべき方向性は、「社会の中の学園」ということを常に意識しながら、これから先も学園がさらに発展するために変革し続けていくことであります。しかし、その変革はひとりよがりの自己満足なものではなく、社会をよく見つめ、学園外の人々や組織体との関係に目を向けながらの変革でなければなりません。それゆえ、その行動基準は、「考動」する一自らの頭で自主的によく考え、自律的かつ積極的に行動する一であり、全ての構成員は、「考動」する関大人として、変化に挑み続けるべきだと考えます。

当然のことながら、挑戦に失敗はつきものです。だからといって、失敗を恐れて挑戦に尻込みするのではなく、失敗を反省し次に活かしながら、「考動力」を持って挑戦し続ける姿勢、組織風土であることが大切です。そして、全構成員が自身のフィールド、新たな世界を切り拓いていくことで、学園が社会の要請に応えた新しい教育、研究、社会貢献の成果を世に問うことができるようになって考えています。したがって、この「世界」が意味することは決して「国際的」というものだけではなく、全構成員が自分の中で新しい分野に挑んだ結果得られるものをも指し示しています。

この大きな方向性を支える**ビジョン項目**が、次の5つです。



躍動的な「知の循環」システムの構築

Establishment of Comprehensive "Knowledge Circulation" System

21世紀の「知識基盤社会」の形成、発展に向け、それを主導する役割を担うべき教育研究機関は、絶えず「知」を生み出し続けなければなりません。しかし、その「知」は個人の中だけに、あるいは学園内だけにとどめられるものではなく、教員と学生・生徒との間で、高等教育機関と幼児・初等・中等教育機関との間で、他大学や他の教育研究機関との間で、さらには、企業、地域社会、世界など学外の様々な「知」との間でつなげられ、相互に利用されていくことが望ましい姿です。

知識は他の知識とつながり、循環することで、より有用なものになります。また、「知」の感動がさらなる未知の世界へと想像力を広げていくことにより、再び新たな好奇心が芽生えます。「知」に終わりはなく、「知」に境界はありません。

そのためにも、一人ひとりの「知」が互いに刺激し合い、つながることができ、また、「知の循環」からさらに新しい「知」が創発されるような教育研究システムを築き上げていく必要があります。

前述のとおり、関西大学は幼稚園、中学校そして高等学校を併設する総合学園です。平成22(2010)年には小学校や新たな学部等も開設します。この一貫教育の強みを活かし、「縦の循環」すなわち、幼児・初等教育から高等教育までの連携、さらには、生涯学習機関としての機能もより充実させた、連携・循環システムを構築していきたいと考えています。

また、商都・大阪を代表する大学の強みとして、企業との「知の循環」もより活性化していきます。同様に、他大学や国内外の教育研究機関、地方自治体等との連携も推進し「横の循環」を強化します。

常に、時代のニーズにアクティブに応える柔軟な、また、将来のニーズを見越した、先見性のある独創的な「知の循環」システムを構築することで、学園の持つ知的資産、教育研究の果実を産業界や地域社会へ循環させ、再び学内へ還流し新たな「知」を生み出し、さらには世界へ「グローバ

ル・スタンダード(世界標準)]を発信することを可能とします。また、その環境の中で想像力豊かな人材を育成し、地域社会や世界で活躍する関大人を輩出し続けていくことで、本学が知識基盤社会においてイニシアティブをとれる学園となることをめざします。



II 学校法人関西大学の長期ビジョン(将来像)について

「考動力」あふれる人材の育成拠点

As a Center for Fostering Talents with Plenty of Ability to Think and Act

本学の学是である「学の実化」とは、「学問と実際との調和を図る」という意味であり、この学是が示すように、本学は、学理学問と実際実践との調和統一を図り、社会に有用な品格ある人材を生み出すことに努めております。また、経営理念に基づき、これからの社会をリードする創造性に富んだ人材、国や地域、社会の発展に主体的に参画する「強い関大人」を育成することを掲げ、日々取り組んでいます。21世紀を担う人材にとって必要な能力とは何か。

国の学校教育政策の中では、「変化の激しいこれからの社会を生きるための力=生きる力」であるとされ、それは「確かな学力」「豊かな人間性」「健康と体力」の3つの要素からなると定義しています。また、学部教育のあり方について見直しを図り、「学士力」なる基準を設け、学生の質を保証するシステムを構築しようという取り組みも行われています。

ここで求められている能力の1つとなるものが、まさに「考動力」であるといえます。

そしてこの「考動力」は、前述の経営理念で謳っている「知の世紀をリードする」、そして学是である「学の実化」が意味することと同じであり、その理念を具現化することにより養うことができると考えます。

「正義を権力より護れ」という建学の精神のもと、このような理念を掲げ教育・研究・社会貢献に取り組んできた本学は、その教育力を最大限発揮して、生徒や学生たちに「考動力」を身につけさせ、地球規模で発生する困難な課題や問題を解決し、社会や世界をリードする人材を輩出します。

そのためには、まず私たち教職員が「考動」する、換言すれば、自ら問題を発見し、自ら解決していけるだけの能力を持って取り組むことが必要です。

学園を「『考動力』あふれる関大人」で満たし、さらには、「『考動力』あふれる人材なら関大人」という社会的評価が得られるよう、その人材の育成拠点となることをめざします。

教育を支える「鍛えられた研究力」

Strong Research Skills to Support Educational Functions

大学間競争が激化する今後の社会において、わが国の大学は、個々の特色や機能を明確に打ち出し、競争に勝ち残ることが求められています。また、そのような中で、今後は、研究を中心とする大学と教育を中心とする大学とに二分化してゆくことも予想されます。

しかしながら、総合大学を標榜する関西大学にとっては、「『教育』か『研究』か」という二者択一ではなく、この両方の任務を担う必要があります。また、双方は「知の循環」システムに組み込まれることで互いに刺激を与えあうものであり、切り離すことはできないと考えています。

ただし、真摯に取り組まれた研究成果が絶えず注ぎ込まなければ、この循環システムにおける知的サイクルは回り続けることができません。そのためには、研究力を鍛え続け、その成果を常に発信し教育に反映し続ける責務があります。

つまり、「教育を支える『鍛えられた研究力』」とは、研究のためだけの研究というのではなく、「良い教育を行うためには、確かな研究力が必要である」というコンセプトを明確に打ち出したものです。ビジョンを策定するにあたり、まず教育と研究との関係を明示しています。そのうえで、「鍛えられた」という、本学独自の考えを表現することといたしました。これは、学園が掲げている「強い関西大学」の「強さ」を象徴しています。

「考動力」あふれる人材を育成・輩出する拠点となるためにも「知」を創造する力を鍛え続けることが必要です。また、研究における情報発信力、国際競争力を高め、世界水準の研究力にまで鍛え上げ、その成果を地域社会そして世界へと常に発信していくことで、世界から高い評価を受け認知される研究機関となることをめざします。

ソーシャル・ネットワークの拡充

～一人ひとりとのつながりを大切に～

**Expansion of Social Network
- Cherishing Human Relationships between Kansai University and Respective Communities -**

学園は、そのときの教職員だけで成り立っているものではなく、受験生、生徒、学生、保護者・父母、校友、そして企業や地域社会といった様々な関係者とのつながりーソーシャル・ネットワークも、学園の大きな資源であり財産であります。

今後ますます高度情報化が進展し、あらゆる活動におけるネットワークが拡大する中で、単にその網を拡げるだけでなく、まずは教職員が「一人ひとりとのつながることの意味」を意識しながら日々の教育・研究・社会貢献活動に取り組めます。それにより、全ての関係者の関大ファミリーとしての帰属意識や満足度を高め、ひいては総合学園としての求心力、組織力を強めていくことになると考えています。そこで、学内外の様々な関係者間の交流プラットフォーム

ーム(基盤、環境)を構築し、情報交換・発信の場を提供することで、それを実現可能にします。

また、前述の「知の循環」システムを軸として、双方向コミュニケーション機能をより充実させ、「誰もが、いつでも、どこでも」学ぶことのできる環境を整備するほか、「つながり」を大切に各種プログラムも実施していきます。さらに、教育・研究・社会連携分野での国際競争力を高めるためのグローバル・パートナーシップの構築も推進します。

学生・生徒・校友の一体感の形成、企業や地域社会と一体となった学園づくりをめざし、全ての関大人がそれぞれの活動分野でネットワークを拡充させ、未来を拓き、世界へと拓かれる学園へと発展していくことをめざします。

ゴーイング・コンサーンとしての学園

～足元を見つめ、未来を見据え発展する学園体制の構築～

Going Concern - Establishment of Governing Structure for the Future Development -

「ゴーイング・コンサーン」とは「永続組織体、組織が将来にわたり事業を継続していく」ということであり、学園は10年先もさらにその先もずっと存続していかなければならないという社会的責任があります。しかし、それは目の前の事柄だけに取り組んでいけば時とともに成されていくものではありません。未来を見据えた戦略、計画のもと、今行うべきことと行ってはいけないことを冷静に見極め、日々努力を続ける結果、自らの手で獲得するものであります。

「大学淘汰の時代」といわれる厳しい状況下であるからこそ、本学は、あえてこの普遍的な概念である「ゴーイング・コンサーン」をビジョンの柱の1つに掲げ、足元をしっかりと見つめつつ、未来を見据え、今後20年、30年、その先もずっと存続・発展し続けるための体制作りをこの10年で確立させる必要があると考えています。

ミッションに基づくビジョンを実現させるためには、諸施策の実行に伴い多大な財政的支出が発生します。このた

め、学園の財政について、全学のおよび長期的な視点に立って十分な分析を行い、ビジョン実現策の実行に十分対応できるだけの財政基盤の形成と、戦略的に資金を投下できるような体制づくりが最優先事項であります。

財政基盤の確立と併せて重要なことは、ビジョンを達成するために必要なキャンパス・グランドデザインの構築です。具体的には、すでに公表している「関西大学 千里山丘の森キャンパス構想」の更新等、長期的な展望に立ち、全学的な視点を持って検討し実行していきます。

そして、本学が「ゴーイング・コンサーン」の学園として、その存在感を未来に示していくためには、ポジショニングすなわち重点地域や重点領域に関する検討を行い、関大ブランドの確立と発信を効果的に行っていく必要があります。

さらに、ビジョン達成のための教学と経営の一体的な運営体制を強化し、効果的な組織改革等も推進します。

Ⅲ 新たな時代を切り拓く As a Front Runner in the New Era

以上、このたび策定した長期ビジョンの内容について説明いたしました。

なお、長期ビジョン策定過程においては、ビジョン実現に向けて特に重点的に取り組む必要がある戦略課題について、①教育改革(学部・大学院)、②教育改革(併設校)、③研究改革、④学生支援改革、⑤大学入試改革、⑥社会連携・生涯学習改革、⑦組織・運営という7つの分野ごとに抽出し、それぞれの実行施策についても探求いたしました。その結果、「長期ビジョン実現のための改革の基本方針」として打ち出しました。今後、その内容についてあらためて検討したうえで、その方針に基づき、いつ、何を、どのような形で実行に移すのかを示す、具体的な行動計画へとつなげてまいります。

本学はこれまでも、建学の精神そして経営理念に基づき、「強い関西大学」の構築に向け絶えざる改革を実行してきました。今後は、それらの実績を踏まえ、長期ビジョンに基づき、さらなる改革を進めていく所存です。120余年の伝統を継承しつつ、新たな時代を切り拓くフロントランナーでありたいと考えております。

そのためには、この長期ビジョンを全構成員が理解し、共有し、ベクトルを合わせて力を発揮することが必要です。

皆様方には、これまでのご協力に感謝申し上げますとともに、今後10年というスパンで成果を上げるために、なお一層のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

Ⅲ 新たな時代を切り拓く As a Front Runner in the New Era

KU Vision 2008-2017

～学校法人関西大学の長期ビジョン(将来像)～

長期ビジョンのイメージ図

めざすべき方向性

社会を見つめ、変化に挑む。
「考動」する関大が世界を拓く。

ビジョン5項目

KANSAI UNIVERSITY

躍動的な「知の循環」システムの構築

「考動力」あふれる人材の育成拠点

教育を支える「鍛えられた研究力」

ソーシャル・ネットワークの拡充
～一人ひとりとのつながりを大切に～

ゴーイング・コンサーンとしての学園
～足元を見つめ、未来を見据え発展する学園体制の構築～

関西大学

【概略および付表】

- 長期ビジョンについて【概略版】
- 長期ビジョン策定の考え方について
- 長期ビジョンと現行の戦略策定構造との関係の整理

KU Vision 2008-2017

～学校法人関西大学の長期ビジョン(将来像)～

長期ビジョンについて【概略版】

めざすべき方向性について

社会を見つめ、変化に挑む。 「考動」する関大が世界を拓く。

社会の中の学園ということを常に意識しながら、「考動」する＝自らの頭で自主的によく考え、自律的かつ積極的に行動する」関大人として、変革に挑み、新たな世界を切り拓くことをめざします。

5つの柱について(ビジョン5項目)

1 躍動的な「知の循環」システムの構築

- ⇒一人ひとりの「知」が互いに刺激し合い、つながることができる「知」の創発システム
- ・常に、時代のニーズにアクティブに応える柔軟な、かつ将来のニーズを見越した先見性のある教育・研究システム
- ・一貫教育の強みを活かし、幼児教育から社会人教育に至るまで、連携・循環した教育システムを構築する(縦の循環)。
- ・他大学や企業・地域社会・世界とのリンク、コラボレーション(横の循環)。

2 「考動力」あふれる人材の育成拠点

- ⇒学園の持てる教育力を最大限発揮して、生徒や学生たちに「考動力」＝自らの頭で自主的によく考え、自律的かつ積極的に行動する力＝を身につけさせ、地球規模で発生する問題を解決し社会や世界をリードする人材を輩出し、「考動力」あふれる人材育成拠点」となることをめざす。

3 教育を支える「鍛えられた研究力」

- ⇒「教育か研究か」といった二者択一の考え方ではなく、「よい教育を行うためには、確かな研究力が必要である」というコンセプトを明確に打ち出す(両者の関係の明示)。
- ・研究における情報発信力・国際競争力を高め、そこで創られた成果を教育に反映させていく。

4 ソーシャル・ネットワークの拡充 ～一人ひとりとのつながりを大切に～

- ⇒受験生や生徒・学生、保護者・父母、校友そして企業や地域社会など関係者間の交流プラットフォーム(基盤、環境)を構築し、情報交換・発信の場を提供することにより、帰属意識の向上、関大ファミリーであることの満足度向上を図るとともに総合学園としての組織力をさらに高める。
- ・教育、研究、社会貢献、学生支援などの様々な活動分野において、ネットワークを海外へと広げ、未来を拓き、世界へと拓かれた学園をめざす。

5 ゴーイング・コンサーンとしての学園 ～足元を見つめ、未来を見据え発展する学園体制の構築～

- ⇒「大学淘汰の時代」といわれる中、本学は、ゴーイング・コンサーン(＝永続組織体、成長し続ける組織体)として、未来に存在・発展し続ける学園であるために、ミッションに基づくビジョン、すなわち建学の精神や経営理念に基づいた将来構想の実現が可能であり続ける体制を構築する。

長期ビジョン策定の考え方について

学園のミッション (使命、理念)

建学の精神:「正義を権力より護れ」
学 是:「学の実化(じつけ)」…①学理と実際との調和 ②国際的精神の涵養 ③外国語学習の必要 ④体育の奨励
経営理念:3つの使命:「教育」「研究」「社会貢献」
スローガン:「知」の世紀をリードし、新しい「公共」を創造する力漲る21世紀型総合学園 「強い関西大学」

大学の方針
 ①これからの社会をリードする創造性に富んだ人材を育成する。
 ②21世紀の国家・社会の形成に主体的に参画する強い関大を育成する。
中学校・高等学校の方針 知・徳・体の高度に調和した人格の育成
幼稚園の方針 生きる力を育てるー自主性、自立心、意欲、社会性ー

「知」の世紀をリードし、新しい「公共」を創造する力漲る21世紀型総合学園

となるために…

KU Vision 2008-2017 10年後の学園将来像

社会を見つめ、変化に挑む。「考動」する関大が世界を拓く。

躍動的な「知の循環」システムの構築

「考動力」あふれる人材の育成拠点

教育を支える「鍛えられた研究力」

ソーシャル・ネットワークの拡充
 ~一人ひとりとのつながりを大切に~

ゴーイング・コンサーンとしての学園
 ~足元を見つめ、未来を見据え発展する学園体制の構築~

これらビジョンの具現化に向けて…

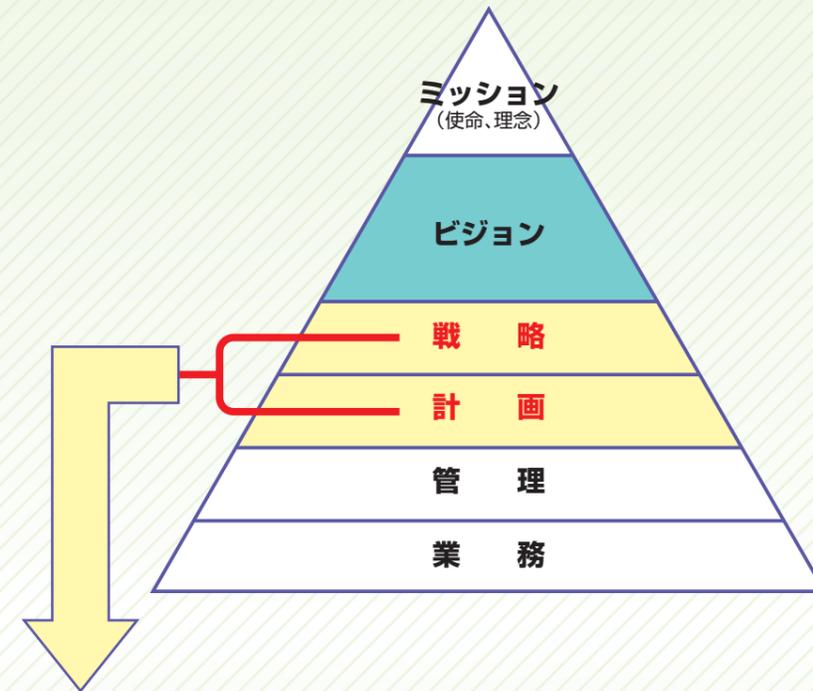
長期ビジョン実現のための改革の基本方針

※具体的な内容については、今後あらためて検討していく。

- 教育改革(学部・大学院):** 大学全入時代に対応できる「私立」「総合」大学であるためにー①「豊かな教養」と「高度な専門的知識・能力」を一体的に修得できるプログラムの構築 ②「教え学びあう」ことの意義を実感できる教育の提供 ③全学の教育研究リソースの結集および有効配分による「教育力」の向上 ④キャンパスの国際化とグローバル社会で貢献できる真の国際人の育成
- 教育改革(併設校):**
 ①幼稚園~大学間の連携を重視した特色ある教育および保育の展開ー「知の循環」システムの構築
 ②今後の併設校新設のあり方: コスト意識およびマーケティング志向に基づく設置検討を行い、特色ある併設校を設置する。
 そして、各学校の位置づけを明確にする。
- 研究改革:** 情報発信力に満ちた研究を力強く推進し、国際的な競争の中で鍛えられた研究力を教育に反映させる。
- 学生支援改革:** 学生支援の核となるキャリア教育および一人ひとりを見つめるサポート体制の更なる充実
- 大学入試改革:** 多様化する受験生に対応し得る入試広報および入学試験制度を確立するとともに、初等・中等教育との連携を考慮した、教育改革と連動した入試改革を行う。
- 社会連携・生涯学習改革:** 拡大する大学の役割を社会や地域の中に埋め込み、「知」を循環させながら共生を図る。
- 組織・運営基盤の構築:** 上記「教学上の改革」を支えるもの。財政基盤の確立を最優先事項とし、ビジョンを実現し続ける学園としての経営体制を築く。

長期ビジョンと現行の戦略策定構造との関係の整理

長期ビジョン策定後は、それに基づき現行の戦略および計画を以下のように見直すことが必要となる。



現 行

基本方針

【経営事項】

- USR(大学の社会的責任)マネジメント体制の構築
- 経営ガバナンスの確立
- コンプライアンス体制の確立
- 大学の危機管理体制の整備
- 環境問題への取り組みの推進
- 全学体制樹立への学内構成員の意識改革
- ステークホルダーに対する説明責任と情報の開示
- 財政基盤の確立 等

【教学事項】

- 教学ガバナンスの確立
- 教学組織の改革
- 教員組織の改革
- 改組・改編など既存学部・研究科の改革推進 等

行動計画

短期 1 年・中期 4 年

戦 略

計 画

長期ビジョン策定後

長期ビジョン実現のための改革の基本方針

- 1 教育改革(学部・大学院)
- 2 教育改革(併設校)
- 3 研究改革
- 4 学生支援改革
- 5 大学入試改革
- 6 社会連携・生涯学習改革

上記「教学上の改革」を支える
 組織・運営基盤の構築

行動計画

長期計画
 短期 1 年・中期 4 年